

霊峰 朝熊岳。  
雨霧の遙か彼方、水墨画の佇まいをみせる。  
それはさながら侘び寂びの世界…

ふるさとの風  
～水無月の候～

# 極楽浄土

## — 朝熊山と金剛證寺

Mount Asama & Kongousho-ji Temple

朝熊山 のぼりて見れば 極楽の 是ぞ誠の 浄土成るらん

—勢陽雜記—

朝熊山は伊勢神宮の北東に位置し、古くから伊勢地方の霊山と崇められ、死者の霊が帰ると信じられてきた。標高555メートル、伊勢・志摩の両国にまたがり、山頂からは神宮の山々や伊勢湾が眼下に広がる。伊勢神宮の鬼門封じの寺 金剛證寺は、その山上に建つ。

この寺の草創は古く、六世紀半ば欽明天皇の頃、暁台上人によって明星堂が建立されたのが始まりとされ、以降聖武天皇の代に至る200年間に多くの行者が来山し修行をしたといわれている。

御本尊は日本三大虚空蔵菩薩の一つ 福威智満虚空大菩薩で、式年遷宮の翌年に開帳される。

朝熊岳の由来は暁台上人が修法の際、朝に熊、夕に虚空蔵菩薩が現れたところからつけられたという。天長二年(825)、空海が中興、堂宇が建立され、真言密教の道場として隆盛を極め、勝峰山兜率院金剛證寺と称するようになった。その後、一時衰退していたが、明德三年(1392)鎌倉建長寺の東岳文昱(仏地禪師)が再興に尽力し、真言宗を臨済宗に改宗し禅宗寺院となり現在に至っている。

～伊勢へ参らば朝熊をかけよ 朝熊かけねば片参り～

室町時代には神仏習合の教えから「伊勢神宮の鬼門を守る寺」として伊勢信仰と結びつき、俗謡にもうたわれたごとく伊勢参宮をすませた人々は朝熊岳に参詣するのが恒例であった。

境内には多くの宝物がみられる。本堂摩尼殿は桃山様式の朱塗りの堂宇、国指定有形文化財である。空海が修行中、天照大御神の姿を刻みこんだと伝えられる雨法童子像。また、経塚群から発見された経筒には神宮の神主の名が刻まれ、仏教が神官たちに受容され広まっていた様子がうかがえる。

芭蕉がこの地を訪れた時に詠んだ歌がある。

神垣や おもいもかけず 涅槃像

極楽門から奥の院へ通じる参道には、先祖供養の巨大な卒塔婆一万柱が立ち並び、霊場の面影を今に伝えている。

6月の開山忌、境内は霧雨に濡れいっそう鮮やかさを増した紫陽花に埋めつくされる。空海が掘ったという連間の池は俗界と聖地を分かち空間。池にかかる朱色の太鼓橋「連珠橋」を境に、此岸～迷いの世界と彼岸～悟りの世界があらわされているという。

涼気が残る夏の朝、数百株の睡蓮が花開く。

その幻想的な世界は見る者を幽玄の世界にいざなうかのよう…。

まさにこの世の極楽浄土…

神と仏が会おう超俗の風景がここにある。

晴れた日には、朝熊山山頂より遠く

富士山までも見晴るかす絶景が眼前に広がる。

朝熊山開山忌は、寺の再興に尽力のあった  
仏地禪師の命日に合わせて行われる。

6月27日(水)～6月29日(金)